

カーネーションのベンチ利用による栽培法

—床土と栽植様式—

目時 秀樹・藤井 明彦・山口 紀彦・畑井昭一郎

(青森県畑作園芸試験場)

Cultivation Technique of Isolated Bed on Carnation

—Culture medium and planting type—

Hideki METOKI, Akihiko HUIJI, Norihiko YAMAGUTI and Shoichiro HATAI

(Aomori Field Crops and Horticultural Experiment Station)

1 はじめに

カーネーションの連作障害を回避するための一つの方法として、ベンチ（隔離床）を利用した栽培方法が考えられる。隔離床では耕土を一定の量に制限しているため、土壌を完全に消毒でき、しかも施設栽培では問題になりやすい塩類の集積についても、排水溝を有しているため、かん水することによって塩類を溶脱させることができる。

青森県の畑土壌の大部分は、腐植含量の多い火山灰土壌を表土としている。そこで、隔離床の床土として、腐植質火山灰土を利用する場合の床土（腐植質火山灰土とピートモスの混合）に占めるピートモスの割合及び栽植様式が、採花期、株当たり切花数、切花品質に及ぼす影響を検討した。

2 試験方法

(1) 供試品種：大輪シム系‘ノラセレクト’，スプレー系‘ライトピンクバーバラ’

(2) 床土に占めるピートモスの割合（%）と仮比重：①40（仮比重0.40），②20（同0.46），③10（同0.51）

(3) 栽植様式（ベッド幅85cm，株間12cm，通路80cm）：
①条間12cm（中央36cm）の5条植え（床面積㎡当り49株），
②条間12cm（中央48cm）の4条植え（同39株）

(4) 栽培環境：ガラス室（加温は、1992年10月9日から12月21日まで最低気温約16℃，12月28日まで約10℃，1993年2月8日まで約5℃，2月15日まで約10℃，5月7日まで約13℃で加温し，その後暖房を止めた。秋は9月25日から12月21日まで約16℃，12月28日まで約10℃の温度に加温した。）

(5) 定植期：1992年10月15日

(6) 摘心：1992年11月5日に5節残して摘心を行い，その後発生した一次側枝は12月21日に4本残し，4本仕立てとした。

(7) 遮光処理：シルバータフベル3,000 Sを地上約2 mの所に設置した。期間は4月14日から8月5日まで。

(8) 採花方法：3節残して採花した。

(9) ベンチ（隔離床）：くみあいドレンベッドを使用し，構造は図1のとおりで，床土の深さは13cmとした。

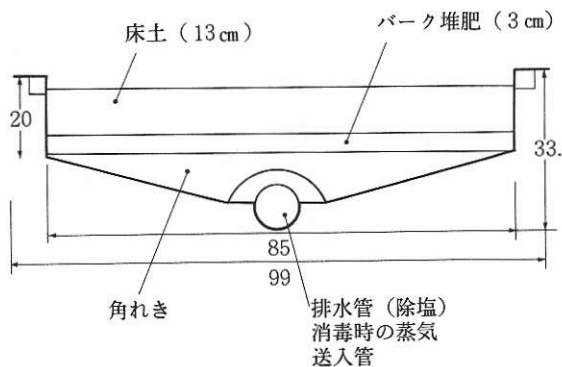


図1 隔離床の構造（単位 cm）

(10) 施肥量 (kg/a)：堆肥200，基肥 $N:P_2O_5:K_2O=1.0:1.6:1.2$ 。追肥 $N:P_2O_5:K_2O=1.0:0.75:0.375$ （6月18日）， $N:P_2O_5:K_2O=1.0:1.0:1.0$ （9月14日，10月25日，12月3日）。

(11) 区制：2区制，5条植えは1区25株，4条植えは1区20株。

3 試験結果及び考察

(1) 三相割合

床土に占めるピートモスの割合とpF1.5の三相割合との関係は，ピートモスの割合が多いほど固相，液相の割合が低く，気相の割合は逆に高かった（表1）。

表1 床土に占めるピートモスの割合とpF1.5の三相割合（1993）

ピートモス (%)	三 相 割 合 (%)		
	固 相	液 相	気 相
40	17.2	40.1	42.7
20	18.8	40.5	40.7
10	20.5	42.2	37.3

(2) 開花初め

‘ノラセレクト’ではピートモス20%区が最も早く，次いで同10%区，同40%区の順で，‘ライトピンクバーバラ’ではピートモス40%区が最も早く，次いで同20%区，同10

表2 月別当り切花数 (1993)

品種	ビート モス (%)	栽植様 式 (条)	開花始 め (月・日)	月別株当り切花数 (本)								株当り 切花数 (本)	株 数	㎡当り 切花数 (本)
				5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月			
ノラセレクト	40	5	5.14	1.98	0.66	0.36	0.44	0.46	0.16	0.26	0.94	5.26	25	121.8
		4	5.13	1.90	0.83	0.23	0.43	0.30	0.18	0.23	1.1	5.18	20	95.9
	20	5	5.9	1.86	0.80	0.34	0.40	0.40	0.18	0.24	1.06	5.28	25	122.3
		4	5.9	1.75	0.95	0.4	0.35	0.23	0.2	0.45	1.35	5.68	20	105.1
	10	5	5.10	1.28	1.21	0.57	0.43	0.31	0.19	0.21	0.75	4.94	24.5	112.1
		4	5.14	1.1	1.2	0.93	0.43	0.28	0.15	0.13	0.73	4.93	20	91.2
ライト ピンク バー バラ	40	5	5.22	1.42	1.58	0.44	0.08	0.46	0.08	0.04	0.14	4.24	25	98.1
		4	5.22	1.72	1.21	0.38	0.23	0.41	0.28	0.16	0.15	4.54	19.5	82.0
	20	5	5.24	1.58	1.34	0.42	0.24	0.3	0.16	0.08	0.24	4.36	25	100.9
		4	5.24	1.63	1.43	0.55	0.2	0.28	0.15	0.15	0.35	4.73	20	87.5
	10	5	5.27	0.62	1.66	0.72	0.38	0.46	0.14	0.18	0.28	4.44	25	102.8
		4	5.27	0.95	1.85	0.4	0.4	0.35	0.1	0.35	0.3	4.7	20	87.0

%区の順であった。栽植様式による差は認められなかった(表2)。

(3) 月別株当り切花数

‘ノラセレクト’のビートモス40%区、同20%区は5月と12月、同10%区は5、6月の、‘ライトピンクバーバラ’のビートモス40%区、同20%区は5、6月、同10%区は6月の株当り切花数が多かった。栽培様式の影響は判然とし

なかった。

(4) 株当り切花数

‘ノラセレクト’ではビートモス20%区が最も多く、‘ライトピンクバーバラ’ではビートモス20%区と同10%区が多い傾向であった。栽植様式による影響については、‘ノラセレクト’では一定の傾向は認められず、‘ライトピンクバーバラ’では4条植え区が多い傾向であった。㎡当り切花数については、栽植様式5条植え区が多かった。

(5) 切花品質

切花長については、2品種とも、いずれの区においても切花長70cm以上であり、良好であった。花蕾数、切花重については、2品種とも良好であった(表3)。

4 ま と め

ドレンベッドは土耕に比べて低温期の生育が旺盛であった。施肥については、生育に応じて適宜追肥する必要がある。隔離床の床土として、腐植質火山灰土を利用する場合、床土(腐植質火山灰土とビートモスの混合)に占めるビートモスの割合は、株当り及び㎡当り切花数、切花品質からみて、‘ノラセレクト’は20%、‘ライトピンクバーバラ’は10~20%が適し、栽植様式では5条植えが有利である。

表3 切花品質 (1993年 青畑園試)

品種	ビート モス (%)	栽植様 式 (条)	切花数 (本)	切花長 (cm)	節 数	花蕾数 (個)	切花重 (g)
ノラセレクト	40	5	131.5	94.8	14.5	—	38.8
		4	103.5	93.9	14.1	—	39.2
	20	5	132	95.3	14.5	—	41.0
		4	113.5	96.0	14.4	—	41.8
	10	5	121	94.8	14.7	—	42.3
		4	98.5	93.9	14.5	—	40.9
ライト ピンク バー バラ	40	5	106	87.2	15.7	7.0	45.6
		4	88.5	88.8	15.9	7.8	48.6
	20	5	109	88.8	15.9	7.6	47.3
		4	94.5	89.3	15.8	8.2	50.1
	10	5	111	89.3	16.7	7.5	47.3
		4	94	90.2	16.5	8.1	50.1